

第3回沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

令和7年度の直轄調査の方針について

令和7年7月16日

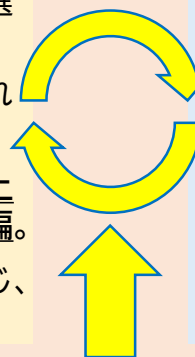
内閣府沖縄総合事務局運輸部

①沖縄交通リ・デザインが目指す豊かな沖縄

- 目標・目指す姿としての「豊かさ」は以下の両輪。
 - ✓ 自由や精神的豊かさ
 - ✓ 経済的・物質的豊かさ
- 経済的・物質的豊かさについては、単なる全体の富の集積ではなく、全員が未来の選択肢を選べるという観点を前提。
- 経済的には「実質所得－移動コスト&時間費用」であり、この指標を全国トップクラスに。
- 両面の豊かさを示す社会的指標を満たすことを目的に「交通」×「〇〇」を一体的に設計。

②多様で質の高い移動環境の整備

- 多様な選択肢があり、自由に行動・移動を選択・決定できることが、移動の質の高さであり、個人が行動選択をする意味をつくる。
- こうした個人の自由な選択こそが、暮らす価値や訪れる価値、生き方への満足度につながる。
- これらを実現するための移動環境の整備や利便性向上であり、そのためのデータの利活用やサービスの再編。
- あわせて、例えば、検索・決済・発券の自動化を通じ、定時性・速達性・予見可能性を向上させる必要。



③「楽しい」移動の主體的な実践

- 多様な選択肢から目的に応じた移動を選択することによる「楽しさ・満足感」を実感させることが重要。
- この点、免許を保有していない若年層や障がい者については、免許保有者に比べ、移動・行動の選択に、より不自由を感じている可能性が高い。（移動制約者）
- まずは、こうした若年層や障がい者をターゲットにサービスを設計し、同時にアクションを引き出すことを通じて、自由な選択による楽しさ・満足感を生み、習慣化・定着を目指す。

④インセンティブと好循環の設計

- 皆が移動やライフスタイルを多様な選択肢から自由に選択するためには、公共交通機関利用による通勤手当が支払われるなど、個々人の金銭的な負担が移動手段やライフスタイルによらないことが前提。
- 他方で、現状、企業や市町村による補助には財源面での限界があることも事実。
- 通勤手当支給のための財源を確保するため、収益性の確保→人材への投資→収益性の向上→再配分（人材への再投資）という好循環を設計し、全員で実践。

- 今年度、内閣府においては、
 - ・ 令和7年度沖縄における持続可能な交通環境構築調査（内閣府沖縄振興局予算）
 - ・ 沖縄交通リ・デザインの目指す姿・目標の設定及び市民の更なる巻き込み戦略の設計に向けた調査検討業務（国土交通省予算）の2つの直轄調査を実施予定。
- 各調査については、第2回沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議（令和7年3月27日開催）及び令和7年5月21日に開催したマーケットデザインチームにおいて、今後目指す方向性・視点として示した以下の4点を踏まえつつ、パブリックインボルブメントを実施しながら検討を行うこととする。
 - ① 沖縄交通リ・デザインが目指す豊かな沖縄
 - ② 多様で質の高い移動環境の整備
 - ③ 「楽しい」移動の主体的な実践
 - ④ インセンティブと好循環の設計
- このうち、内閣府沖縄振興局予算については③を、国土交通省予算については①及び④の検討を主に行うこととし、パブリックインボルブメントを通じて得た市民の声を踏まえ、②についても検討することとする。

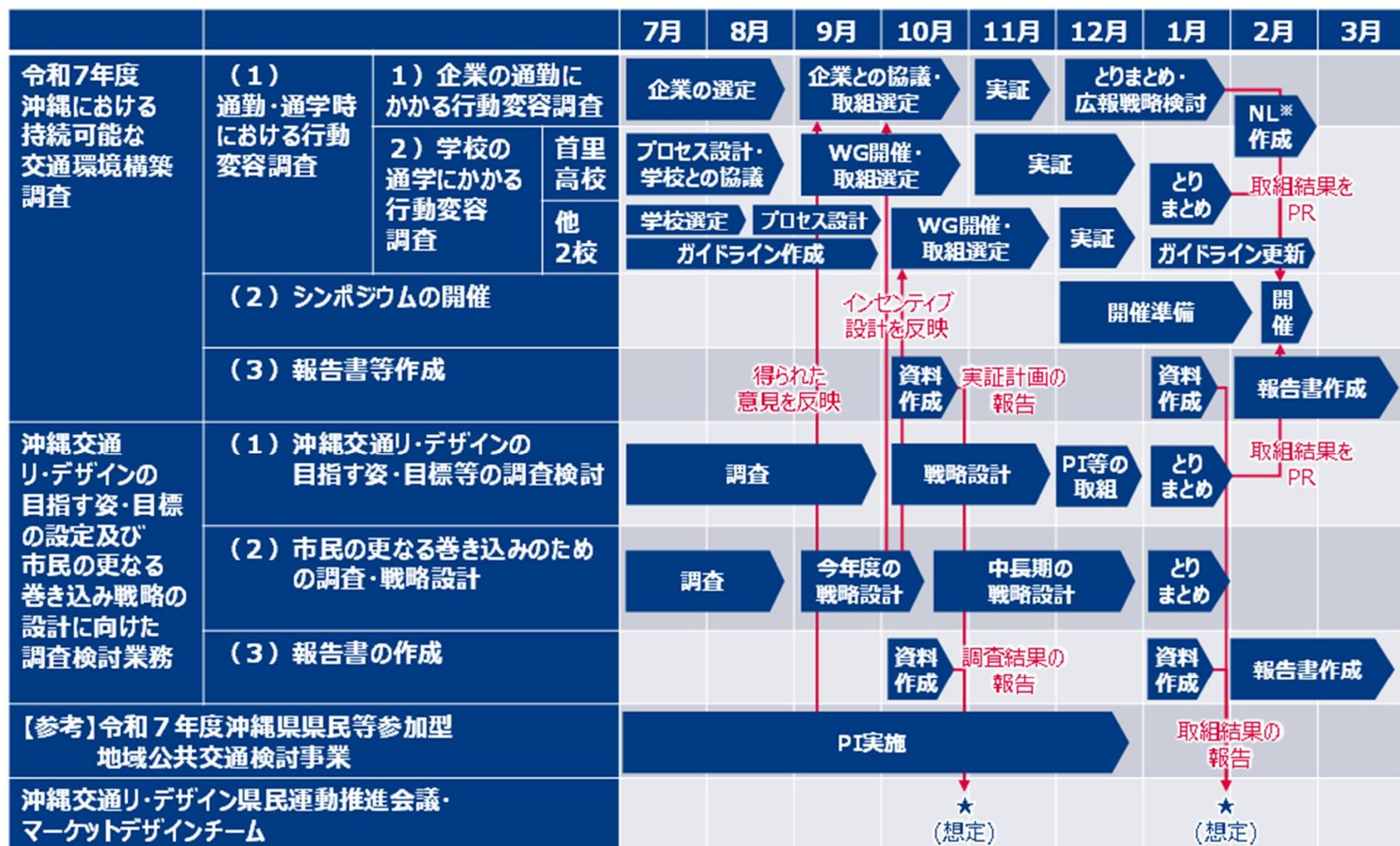
国土交通省予算による調査の概要

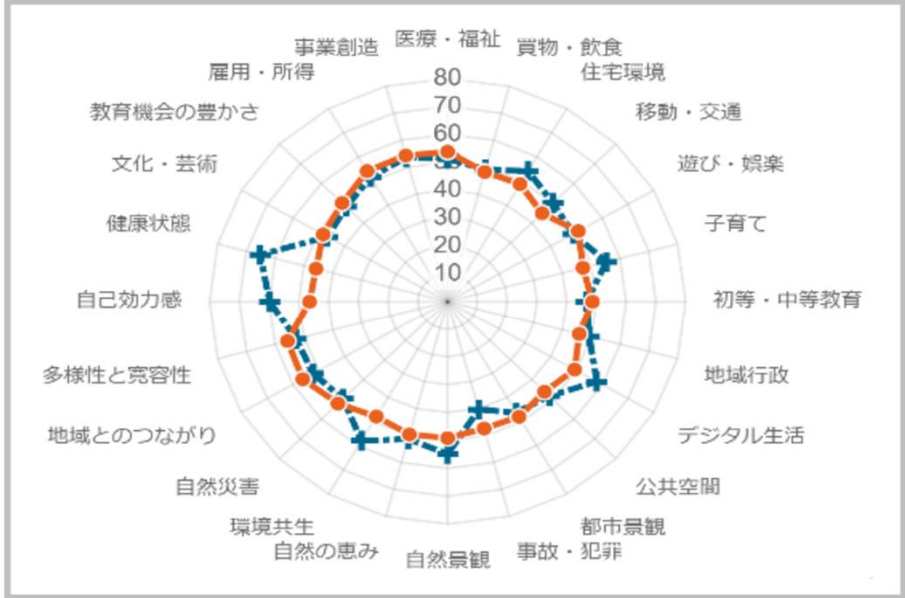
- (1) 目指す姿・目標等の調査検討
 - 欧州委員会のSUMPやOECDのWell-being Framework等を踏まえ、目指す姿・目標及びモニタリングのための視点・指標を地域や住民が主導して設定する手法の設計
 - 先行的に県内の複数エリアにおいて試行
- (2) 市民の更なる巻き込みのための調査・戦略設計
 - 行動変容を促す仕組みやインセンティブ、メディア、著名人、既存のイベント等の活用を含めた市民の更なる巻き込みのための戦略設計

沖縄振興局予算による調査の概要

- (1) 通勤・通学時における行動変容調査
 - 通勤については、沖縄県が実施する予定のPI事業と連携し、通勤の行動変容のための実証を実施
 - 通学については、中南部地区の複数の高校を対象に、ワークショップ等のPIを実施し、昨年度の調査結果も踏まえ、競争やゲーム的な要素も含めた通学の行動変容のための実証を実施
- (2) シンポジウムの開催

令和7年度の直轄調査の方針について（全体スケジュール）





橙色の線 = 主観評価、青色の線 = 客観評価

カテゴリー名称		
生活環境(16)		地域の人間関係(2)
医療・福祉	公共空間	地域とのつながり
買物・飲食	都市景観	多様性と寛容性
住宅環境	自然景観	自分らしい生き方(6)
移動・交通	自然の恵み	自己効力感
遊び・娯楽	環境共生	健康状態
子育て	自然災害	文化・芸術
初等・中等教育	自己・犯罪	教育機会の豊かさ
地域行政		雇用・所得
デジタル生活		事業創造

生活環境(16)

医療・福祉

- 特定健康診断受診率
- スポーツ行動者率
- 喫煙率(-)
- 人口あたり生活習慣病受療者数(-)
- 人口あたり気分障害(うつ等)受療者数(-)
- 可住地面積あたり医療施設数
- 人口あたり医療施設数
- 人口あたり産科・産婦人科医師数
- 人口あたり児童福祉施設数
- 人口あたり障害者支援施設数
- 可住地面積あたり介護施設数
- 人口あたり介護施設数
- 人口あたりホームヘルパー数

買物・飲食

- 可住地面積あたり小売店舗数
- 人口あたり小売店舗数
- 可住地面積あたりコンビニエンスストア数
- 人口あたりコンビニエンスストア数

住宅環境

- 平均価格(住宅地)(-)
- 一戸建の持ち家の割合

移動・交通

- 可住地面積あたり駅・バス停数
- 人口あたり駅・バス停数
- 職場までの平均通勤時間(-)
- 道路整備率

遊び・娯楽

- 余暇時間
- 教養・娯楽サービス支出
- 可住地面積あたり映画館数

子育て

- 保育所まで1km未満の住宅割合
- 可住地面積あたり地域子育て支援拠点箇所数
- 児童保育設置率
- 歳出総額における教育費の構成比
- 人口あたり待機児童数(-)
- 合計特殊出生率

初等・中等教育

- 可住地面積あたり小学校数
- 可住地面積あたり中学校数
- 可住地面積あたり高等学校数
- 施設あたり小学生数(-)
- 施設あたり中学生数(-)
- 施設あたり高校生数(-)
- 教員一人あたりの児童生徒数(-)
- 遠隔教育実施率
- 小中学生の自己肯定感
- 小中学生の自ら学ぶ態度
- 自分の考えを深める学生
- 将来に目標を持つ学生
- 子どものチャレンジ率
- 進んで助ける学生
- 子供の体力・運動能力水準以上
- 学力水準
- 不登校児童数(-)

地域行政

- 人口あたり図書館借出者数
- 人口あたり博物館入館者数
- 人口あたり体育施設利用者数
- 地域財政指数

デジタル生活

- 自治体DX指数
- デジタル政策指数
- デジタル生活指数

公共空間

- 可住地面積あたり都市公園数
- 人口あたり都市公園数
- 可住地面積あたり市民農園面積
- ウォーカル指数

都市景観

- 都市景観指数

自然景観

- 自然景観指数

自然の恵み

- 食料生産ポテンシャル
- 水供給ポテンシャル
- 木材供給ポテンシャル
- 炭素吸収量
- 蒸発散量
- 地下水涵養量
- 土壌流出防止量
- 窒素除去量
- リン酸除去量
- NO2吸収量
- SO2吸収量
- 洪水調整量
- 表層崩壊からの安全率
- 緑地へのアクセス度
- 水域へのアクセス度
- オートキャンプ場への立地

環境共生

- 公害苦情件数(典型7公害)
- 人口あたり再生エネルギー発電量
- 人口あたりエネルギー消費量(-)
- 人口あたりゴミ排出量
- 食料自給率

自然災害

- 外水氾濫危険度
- 高潮危険度
- 土砂災害危険度
- 地震動危険度
- 津波危険度
- ハード対策
- 避難・救助
- 要配慮者支援
- 防災教育
- 防災まちづくり
- 情報・デジタル防災

事故・犯罪

- 人口あたり交通事故件数(-)
- 人口あたり刑法犯認知件数(-)

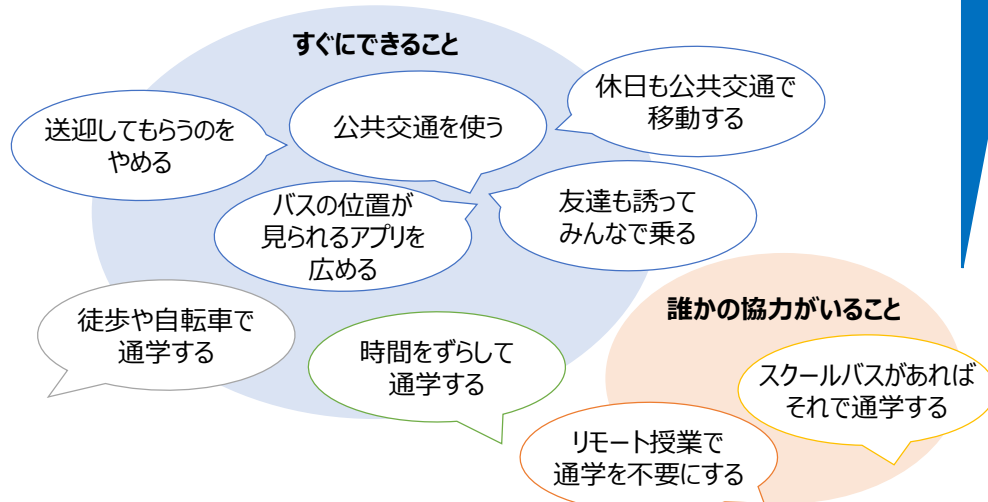
例えば、これらの項目について、「移動」との関係性を整理しつつ、目指す姿・目標等の設定やモニタリングに活用するための手法を検討。

<ワークショップの実施>

・テーマ①「沖縄の理想の未来」



・テーマ②「理想の未来のために私たちは何ができるか」



<通学に関する主体的なアクション>

